

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

保健体育課長 堀江 隆典

電話番号

0852-22-5722

事務事業の名称	国民体育大会選手派遣事業		
目的	(1) 対象	競技スポーツ者	
	(2) 意図	できるだけ多くの選手が国体へ出場する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの選手及び監督を国体中国ブロック大会や国体本大会へ派遣するため、関係競技団体に対して、国体の県予選大会運営費を補助する。 できるだけ多くの選手及び監督を国体本大会へ派遣するため、県予選を勝ち抜いた選手及び監督を国体中国ブロック大会へ派遣する。 県予選及び中国ブロック大会を勝ち抜いた選手及び監督を国体本大会へ派遣する。 		

2. 成果参考指標

(1)	指標名	国体選手派遣数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		318.00	318.00	318.00	318.00	
式・定義	国民体育大会に派遣した選手数		実績値	252.00	289.00	304.00	284.00		
			達成率		90.90	95.60	89.40		%
	指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	126,475	99,310
うち一般財源 (千円)	126,475	99,310

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・H26国体ブロック大会を突破して本国体へ出場することができた競技数は13競技（H25：14競技）、種目数は30種目（H25：27種目）であった。
- ・種別では、成年男子は6競技7種目（H25：3競技4種目）、成年女子は2競技2種目（H25：5競技5種目）、少年男子は6競技9種目（H25：6競技9種目）、少年女子は8競技10種目（H25：7競技8種目）であった。
- ・団体と個人の別では、団体が18種目、個人が10種目（H25も同数）であった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・国体ブロック大会を突破して本国体へ出場することができた競技種目数は増加した。特に少年女子の中国ブロック大会を突破して本国体へ出場することができた競技種目数は増加した。
（少年女子 H23：6種目→H24：5種目→H25：8種目→H26：10種目）

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・成年女子のブロック大会を突破する競技種目が減少している。
（H21：11→H22：6→H23：6→H24：4→H25：5→H26：2）
- ・ブロック大会を突破する競技種目が少ない。
（島根：30種目、鳥取：29種目、岡山：57、広島：47、山口：53）
- ・ブロック大会に不参加の競技種目が多い。
（島根：8種目、鳥取：4種目、岡山：6種目、広島：8種目、山口：4種目）

②困っている状況が発生している「原因」

- ・社会人として働きながら競技を続けることのできる環境が不足している。
- ・高校3年生など進学のためにブロック大会に参加できないケースもある。
- ・ブロック大会不参加種目は、競技人口の少ない、いわゆる未普及競技に多い。

③原因を解消するための「課題」

- ・大学へ進学しても競技を続けたり、社会人として働きながら競技を続けたりすることのできる環境を充実させる必要がある。
- ・未普及競技の普及活動や未普及競技に関わる選手や指導者等の人材育成を図る必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・自社内にスポーツクラブを有するなど企業をあげてスポーツ振興に取り組む企業の強化対策の支援、特別体育専任教員制度の維持など、必要な環境を充実させる。
- ・競技団体、県中体連、県高体連、県体協、県教育委員会が一体となって、ブロック大会不参加種目の選手等の育成に取り組む。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）